

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



世界選手権ロードレース(ノルウェー)



2017ジャパンカップサイクルロードレース……………2
第51回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ 6



2017 全日本マスターズ選手権個人タイムトライアル ……7
男子エリート・ロードレースランキング……………7
競技大会結果……………8
日本代表選手団……………12
マウンテンバイク Coupe du Japan 年間チャンピオン… 13
連盟の動き/今後の大会予定……………13



2017年UCIロード世界選手権大会……………14
2017ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム……………19
2017-18 UCIトラックワールドカップ第2戦photo ……20



この広報誌は、
競輪の補助により
作成しました。

<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>

2017 ジャパンカップ サイクルロードレース

マルコ・カノラ、史上初となる
クリテリウムとのダブルタイトル獲得



2017 JAPAN CUP

ジャパンカップのスタート

26回を数え新たな四半世紀を迎えたジャパンカップは、折しも発生した台風21号の影響により雨中でのレースとなった。レース当日10月22日(日)9:00現在の台風本体の位置は、まだ四国南の海上にあったが、台風の接近に伴う秋雨前線の活発化により、宇都宮市森林公園コースは朝から本格的な雨で、更に雨脚が強くなることが予想された。この日まで雨天が続いていたということもあり、山砂が流れ出してコース表面を覆う可能性を考慮して、大会本部は14周144.2km

で行われるレースの短縮を決定。参加各チームにも通達され、レースは1周10.3kmのコースを10周、103kmで行われることになった。いささか残念な決定ではあったが、この悪天候の中を訪れた多くの観客の、帰路の安全を確保するという観点からも、やむを得ない決断だったと言える。

降りしきる雨の中、14チーム69名の選手が定刻10時にスタート。南風の影響で、気温はそれほど低くない。その風もスタートの時点では気になるほどではなかった。1周目の古賀志

林道山頂を制したのは畑中勇介(チーム右京)で、田野(7km地点)のポイントで集団との差は4秒。しかし畑中は程なく吸収され、1周完了のフィニッシュ地点では9名の集団がメイン集団をリードする。レース短縮に伴い山岳賞は2周ごとに設定され、2周目の古賀志林道の上りには、早くも最初の山岳賞が懸かる。それを狙って4名の選手がアタックし、1回目の山岳賞はトマ・ルバ(キナン)が獲得する。そしてそのアタックはそのまま逃げ集団の形成に繋がり、ルバ、アントワン



逃げる初山を含む3人 メイン集団



別府が引く集団

トルク(チーム・ロット)、初山翔(ブリヂストン)の3名が先頭に立つ。2周完了のフィニッシュ地点では、先頭3名に遅れること32秒で9名の選手が追い、先頭から2分13秒遅れでメイン集団という状況。地元宇都宮ブリツェン勢が、積極的にメイン集団を引いていく。

2回目の山岳賞が懸かる4周目の上り、ルバ、トルク、初山の並びから初山がアタックし山頂を制するかわかれたが、トルクが初山のインを突いて2回目の山岳賞を獲得する。後続9名は遅れること1分22秒で山頂を通過、下りでメイン集団から7名の選手が飛び出して9名に合流し、16名の第2集団が形成される。4周を過ぎて先頭集団と第2集団の差は1分11秒。1分34秒差で鈴木龍(ブリヂストン)が単独で通過し、1分52秒差でメイン集団が続く。

5日目、レースも中盤となりメイン集団が動く。3名の逃げならば容認できるが、16名が合流し19名の逃げとなったら、そのまま決まってしまう恐れがある。メイン集団は古賀志林道でペースアップを図ると、下りで一気に16名の第2集団を吸収する。県道(6km地点)のポイントで先頭3名との差は1分5秒に縮まるが、46名となったメイン集団はそれ以上差を詰めることなく、5周完了のフィニッシュ地点で差は1分37秒に開く。

6日目、3回目の山岳賞は初山が獲得し、これで先頭3名が3つの山岳賞を分け合うことになった。メイン集団

からクーン・ポーマン(チーム・ロット)、マルコ・カノラ、イヴァン・サンタロミータ(以上NIPPO)、アイラン・フェノナン(マトリックス)の4名が飛び出して追走集団を形成する。6周完了のフィニッシュ地点で先頭3名との差は1分30秒。7日目に入るとメイン集団からホセ・ロバト(チーム・ロット)とネイサン・アール(チーム右京)の2名が抜け出し、追走4名に合流して6名の第2集団が形成される。しかしメ

イン集団もペースを上げ、7周完了時のフィニッシュ地点で第2集団とメイン集団の差は10秒。そのまま一気にメイン集団は第2集団を吸収する。

8日目、古賀志林道の上りでメイン集団からダヴェデ・ヴィレラ(キャンデール)が飛び出すと、集団は一気に活性化し2つに分かれる。8周完了のフィニッシュ地点では、先頭3名に遅れること24秒でヴィレラとヤルベル・ストゥイヴェン(トレック)の2名、5秒後にメイン集団22名、先頭から遅れること1分17秒で16名の集団が通過する。メイン集団は前を行く2名を吸収。9日目の下りでカノラ、ベンジャミン・プラデス(チーム右京)そして宇都宮ブリツェンの雨澤毅明が抜け出し先頭3名に合流し、6名がメイン集団に35秒の差をつけて最終周回に入る。

最終周回の古賀志林道、ここまで先頭を守ってきた初山が上りで脱落する。雨澤は上りではやや遅れ気味だったものの、下りで4名に合流。メイン集団は上りでバラけた状態となっており、この時点で先頭5名に優勝争いは絞られた。5名はローテーションしながらゴールへ向かう。勝敗の行方はゴールスプリントで決する可能性が高い。ここまで逃げてきたトルクと



ジャパンカップ優勝のカノラ

ルバはやや分が悪いのか？前日のクリテリウムを制したカノラの完全優勝なるか？地元ブリッツェンの雨澤の初優勝なるか？フィニッシュ前に陣取った観客の興味は尽きない。

フィニッシュ前のストレートに先頭集団が姿を見せた。先頭はカノラ、続いてブラデス、トールクとルバが並んで続き、地元期待の雨澤が後ろから追い上げる！だが前日のクリテリウムでもロングスパートを見せたカノラは強かった。誰の後塵を拝することもなく逃げ切り、ジャパンカップ史上初となる完全優勝、ダブルタイトルを獲得した。2位はブラデス、雨澤は追い上げ及ばず3位となったが、アジア最優秀選手賞とU23最優秀選手賞を獲得した。

**別府史之 3 連覇ならず、
カノラがクリテリウムを制す**

小雨降りしきるなか宇都宮大通りに集まった公式発表 48,000 人の大観衆の興味の一つは、別府史之のクリテリウム 3 連覇にあっただろう。別府の所属するトレック・セガフレードはこのレースのために、8月のプエルタ・ア・エスパーニャで引退したアルベルト・コンタドールを特別にエントリーし、別府の3連覇に向け盤石の態勢をしいた。レースはそのトレック勢が積極的にメイン集団を引っ張る。集団から飛び出す選手もいるが、大きなリードを得ることはできない。8周目に設定された2回目のポイント賞

を獲得したダニロ・ヴィス（BMCレーシング）が、5秒ほどの差をつけて2周回独走するが、トレック勢のコントロール下にあるメイン集団はそれ以上の差を許すことなく吸収する。トレックのアシストであるグレゴリー・ダニエル、クーン・デコルドらが積極的にメイン集団を引いていくが、最終周回の最終コーナーを抜けて飛び出したのはNIPPOのカノラだった。落車が発生したことも相まって集団はばらけ、今季好調のカノラが余裕をもってクリテリウムを制した。3回目のポイントは地元チーム宇都宮ブリッツェンを退団する鈴木真理が獲得し、ゴール後も沿道から大観衆の歓声を受けていたのが印象的だった。



クリテリウムを制したカノラ



コンタドールが引く集団 ホープフルクリテ優勝の依田



オープンレース、
男子は横塚、女子は金子が制す

21日(土)に行われたオープンレース男子(7周、72.1km)は、台風接近の影響もあって多くの選手が欠場し、当初の2クラス制から1クラスに変更されてスタートした。レースは最後まで逃げが決まらず集団でのスプリント勝負になり、横塚浩平(LEOMOベルマーレ)が優勝。2位は武山晃輔(日本大学)、3位は中井唯晶(京都産業大学)となった。3周、30.9kmで行われたオープンレース女子は、1周目から金子広美(イナーム信濃山形)、大堀博美(YOKOSUKA UNO)、中井彩子(鹿屋体育大学)の逃げ集団が形成される。2周目に中井が千切れ優勝は金子と大堀の一騎打ちとなり、最後抜け出した金子が優勝した。2位は大堀で、3位には西加南子(LUMINARIA)とのスプリントを制した中井が入った。(村田 隆宣)

【競技結果】

2017 ジャパンカップ サイクルロードレース
(2017/10/22 栃木・宇都宮森林公園)

個人ロードレース(103km)

1	CANOLA Marco	NIP	2:45:37
2	PRADES REVERTER Benjami	UKO	2:45:37
3	雨澤 毅明	BLZ	2:45:37
4	TOLHOEK Antwan	TLJ	2:45:37
5	LEBAS Thomas	KIN	2:45:37
6	STUYVEN Jasper	TFS	2:46:11
21	石上 優大	JPN	2:46:53
28	木村 圭佑	JPN	2:49:32
30	岡本 隼	JPN	2:49:35
33	入部正太郎	JPN	2:49:35
	山本 大喜	JPN	FAD

2017 ジャパンカップ・クリテリム
(2017/10/21 栃木・宇都宮)

個人ロードレース(33.75km)

1	CANOLA Marco	NIP	43:57
2	LOBATO DEL VALLE Juan Jose	TLJ	43:58
3	WELTEN Bram	BMC	43:58
4	雨乞 竜己	KIN	43:58
5	HILL Benjamin	ATG	43:58
6	ABERASTURI IZAGA Jon	UKO	43:58
16	山本 大喜	JPN	44:01
26	石上 優大	JPN	44:13
66	岡本 隼	JPN	45:14
68	木村 圭佑	JPN	45:37
69	入部正太郎	JPN	45:37

ホープフル・クリテリム(6.75km)

1	依田 翔大	甲府工業高校	9:14
2	宇賀神怜真	作新学院高校	9:14
3	今崎 勇希	栄北高校	9:14
4	松崎 広太	取手第一高等学校	9:14
5	木村 皆斗	取手第一高等学校	9:17
6	角田 光	白河実業/学法石川	9:17

オープン男子(72.1km)

1	横塚 浩平	東京	1:57:00
2	武山 晃輔	栃木	1:57:01
3	中井 唯晶	京都	1:57:01
4	沢田桂太郎	東京	1:57:02
5	西原裕太郎	奈良	1:57:04
6	中村 魁斗	神奈川	1:57:04

オープン女子(30.9km)

1	金子 広美	三重	58:21
2	大堀 博美	神奈川	58:21
3	中井 彩子	鹿児島	59:26
4	西 加南子	千葉	59:26
5	合田祐美子	岡山	59:32
6	吉川 美穂	栃木	1:00:07



2017 ジャパンカップ
サイクルロードレース
日本代表選手団

大会名 2017 ジャパンカップ
サイクルロードレース
(UCI アジアツアー・オークラス)

派遣期間 2017年10月20日~22日
大会期間 2017年10月21日~22日
開催場所 栃木県・宇都宮市

監督 浅田 顕 (JCF 強化コーチ)
コーチ 柿木 孝之 (JCF 強化コーチ)
メカニック 高橋 優平 (JCF 強化支援スタッフ)
マッサー 穴田 悠吾 (JCF 強化支援スタッフ)

選手 岡本 隼(日本大学/愛三工業レーシング)
入部正太郎(シマノレーシング)
木村 圭佑(シマノレーシング)
山本 大喜(鹿屋体育大学)
石上 優大(EQADS/
AVC AIX EN PROVENCE)



オープン女子の金子(左)と大堀 日曜日スタート前の日本チーム

第51回 JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

佐野淳哉が3人のスプリント勝負を制して今季2勝目



佐野のフィニッシュ

ホセ・ピセンテが個人総合優勝
チーム総合はマトリックスパワータグ

■Jプロツアー (JPT)

3月に宇都宮で開幕し、日本各地で熱戦を繰り広げてきた2017年のJプロツアー。最終戦はレースレーティングAAAA(クアトロ・エー)に指定される「経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ」だ。

当初は新潟県の南魚沼市で2日間開催の予定だったが、コースに使用する道路が落石などにより使用出来なくなったため、群馬サイクルスポーツセンターでのワンデーレースに変更しての開催となった。

P1クラスは6kmサーキットを22周する132km。1周目の登りで集団が割れて30人ほどが先行。そこからさらに、岡篤志(宇都宮ブリッツェン)、佐野淳哉(マトリックスパワータグ)、湊諒(シマノレーシング)、柴田雅之(那須ブラーゼン)、中西健児(KINAN Cycling Team)、笈五郎(イナメ信濃山形)、トム・ボシス(東京ヴェントス)の7人が先行して逃げ集団が形成される。5日目には阿部嵩之(宇都宮ブリッツェン)と安原大貴(シエルヴォ奈良)の2人が合流して9人になる。

逃げ集団との差は3分以上に開くが、メイン集団がペースアップし、レース中盤を前に1分以内まで詰める。そ

こから逃げ集団へ数名がブリッジ。木村圭佑(シマノレーシング)、中田拓也(インタープロサイクリングアカデミー)、岸崇人(那須ブラーゼン)、若杉圭祐(シエルヴォ奈良)、横塚浩平(LEOMO Bellmare Racing Team)、山本元喜(KINAN Cycling Team)、横山航太(シマノレーシング)らが合流。遅れた選手との入れ替わりを経て、逃げ集団は13日目までに16人に増える。メイン集団との差は2分前後で推移しながら、レースは終盤へ突入する。

残り3周となる19日目、逃げ集団ではアタック合戦が始まる。佐野、岡、山本、横山、湊らがアタックするが、どれも決定打とならず。最終周回に入る瞬間に佐野が再度アタック。この動きについて行けたのは岡、山本、横山の3人。その直後に岡が落車で遅れ、入れ替わりに木村が追走して合流する。メイン集団は1分以内まで差を詰めるが、吸収するまでには至らない。最後の心臓破りの登りで佐野がアタック。山本と木村が続き、横山は遅れる。最後は3人によるスプリント勝負に持ち込まれ、佐野が先着して優勝。タイムトライアルチャンピオンシップに続く今季2勝目を挙げた。団体成績もマトリックスパワータグが優勝し、経済産業大臣旗を獲得した。

これにてJプロツアーは2017年シーズンが終了した。

個人総合優勝はホセ・ピセンテ(マ

トリックスパワータグ)。U23個人総合優勝は雨澤毅明(宇都宮ブリッツェン)。チーム総合優勝はマトリックスパワータグで確定した。

■Jフェミニンツアー (JFT)

Fクラスは6周36km。2日目までに5人が先行。レース後半に向けて榎木祥子(AVENURA AIKOH VICTORIA RACING)と、合田祐美子(BH BIORACER)の2人がペースを上げていくが、新川明子(ブラウブリッツェン)、谷江史帆(バルパレーシングクラブ)も続く。4人のまま最終周回に入り、最後のスプリント勝負で谷江が先着して優勝した。

■Jエリートツアー (JET)

E1クラスは7周42km。序盤から何度もアタックがかかるが、勝負を決定づけるような動きは生まれず。逃げと吸収を繰り返しながらレースは進行し、最後のスプリント勝負へ。横一線の集団スプリントから抜け出した八幡光哉(FORCE)が優勝した。

写真・文：JBCF(一社)全日本実業団自転車競技連盟

【競技結果】

第51回 JBCF 経済産業大臣旗
ロードチャンピオンシップ(2017/10/28 群馬・
群馬サカスホ-センター)

P1クラス(132km)

1	佐野 淳哉	静岡 マトリックス	3:22:29
2	木村 圭祐	滋賀 シマノレーシング	3:22:30
3	山本 元喜	奈良 KINAN	3:22:30
4	横山 航太	長野 シマノレーシング	3:22:40
5	吉田 隼人	奈良 マトリックス	3:22:44
6	吉岡 直哉	京都 那須ブラーゼン	3:22:46

団体成績

1	マトリックスパワータグ	565p
2	シマノレーシング	550p
3	KINAN Cycling Team	365p

Fクラス(36km)

1	谷江 史帆	福井 バルパレーシング	1:04:11
2	榎木 祥子	東京 AVENURA	1:04:12
3	合田祐美子	岡山 BH BIO	1:04:12
4	新川 明子	栃木 ブラウブリッツェン	1:04:13
5	棟近 陽子	奈良 Euro-Works	1:06:11
6	坂本 沙弥	東京 フィッツ	1:07:36

E1クラス(42km)

1	八幡 光哉	東京 FORCE	1:02:33
2	和田 卓也	大阪 Y's Road	1:02:33
3	森柴 晃彦	東京 パラディウム	1:02:33
4	赤荻 秀弥	栃木 弱虫ヘタール	1:02:33
5	永吉 篤弥	愛知 DESTRA	1:02:33
6	中川 直樹	静岡 Spade-Ace	1:02:33

2017 全日本マスターズ選手権個人タイムトライアル

記念すべき第1回大会のチャンピオンが決定!

個人TT 男子30-39歳の岩島



11月5日、東京都大島町のサンセットパームラインで、2017全日本マスターズ選手権個人タイムトライアルロードレース大会が開催された。

大会直前の台風21・22号の被害で開催が危ぶまれたが、地元の多大なご尽力で無事開催にこぎ着け、記念すべき第1回チャンピオンが決定した。

また前日には、東京車連主催の2017東京都大島三原山ヒルクライム大会が全日本学生ロードレースカップシリーズ第5戦を併催し行われた。

こちらは御神火スカイラインを三原山山頂まで登る6kmのコース(平均斜度8.6%)で、岡部裕太が19分42秒86のコースレコードを記録した。

写真:東京都自転車競技連盟

【競技結果】

2017全日本マスターズ選手権個人タイムトライアルロードレース大会
(2017/11/5 東京・大島サンセットパームライン)

男子30-39歳(20.4km)

- 岩島 啓太 東京 MIVRO 29:24.15
- 加納 篤 栃木 Fukuoka 30:26.66
- 岡本康太郎 和歌山 Sanremo 30:52.97
- 船山 崇 東京 アクアタ 31:15.52
- 伊藤 晋一 神奈川 Positivo 31:22.78
- 金井 慎次 静岡 静岡ガス 32:25.16

男子40-49歳(20.4km)

- 佐藤 秀和 埼玉 サイクルファーム 30:17.55
- 中西 昭夫 東京 竹芝サイクル 30:59.63
- 岩月 伸夫 愛知 伊予信濃 31:39.89
- 増田 輝之 千葉 Fast Lane 32:01.53
- 清水 洋一 東京 Fast Lane 32:38.63
- 吉田健太郎 群馬 TRC 33:38.79

男子50-59歳(10.2km)

- 吉田 勝彦 埼玉 ヴァンレーセ 15:44.63
- 秋郷 伸一 東京 パインヒルズ 17:26.59
- 勝川 真司 東京 チームCB+ 17:30.16
- 仲沢 隆 東京 17:54.27

男子60歳以上(10.2km)

- 小林 英樹 長野 快レージング 17:32.30

女子(10.2km)

- 岡本 愛 和歌山 Sanremo 18:53.47
- 蓑原由加利 東京 ろう自転車 19:02.80

オープン(20.4km)

- 高橋 伸成 静岡 FIETS 30:18.27
- 香西 真介 神奈川 飛ハボーンズ 30:25.99
- 岡部 祐太 広島 日本体育大 30:37.43
- 奥澤 優也 埼玉 AutoBahn 34:27.11

2017 東京都大島三原山ヒルクライム大会
(2017/11/4 東京・大島 御神火スカイライン)

男子マスターズB(6km)

- 吉田 勝彦 埼玉 ヴァンレーセ 22:32.72
- 高橋 伸成 静岡 FIETS 23:04.85
- 玉本 洋 群馬 群馬ロード 30:47.08

女子(6km)

- 蓑原由加利 東京 ろう自転車 29:51.55

学連1+2(6km)

- 岡部 祐太 広島 日本体大 19:42.86
- 田崎 康平 栃木 明星大学 20:24.41
- 牧 直利 京都 京都大学 20:53.48
- 向井田 直 京都 京都大学 21:39.22
- 原 裕紀 千葉 順天堂大 21:48.34

学連3(6km)

- 西部 真生 長野 信州大学 20:28.19
- 辰巳 寛明 京都 京都大学 20:50.26
- 櫻庭 悠真 神奈川 明星大学 20:58.45
- 沖野 浩平 京都 京都大学 21:27.10
- 安藤 壮人 東京 一橋大学 21:52.78
- 安西 祥幸 神奈川 東京大学 22:47.70



超登坂のヒルクライム

男子エリート・ロードレースランキング

2017/11/12

順位	名前	所属	合計	7/7選	7/7選	TOJ	TOJ	能野	能野	能野	全日本	全日本	T北海道	T北海道	T北海道	T北海道	世界選	全日本	Japan	ワールド
				TT	ロード	総合	8 St	2017	2017	総合	1 St	3 St	TT	ロード	総合	1 St	2 St	3 St	ロード	実業団
1	別府 史之	JPCA	180p		125							55								
2	雨澤 毅明	栃木	145p			5						15							125	
3	畑中 勇介	東京	130p									70							35	25
4	西園 良太	鹿児島	108p	10		10		20			30		30			3			5	
5	岡本 隼	和歌山	84p		70									1	8				5	
6	新城 幸也	JPCA	80p		70												10			
7	佐野 淳哉	静岡	75p								25							10		40
8	小野寺 玲	栃木	60p	25	15						20									
9	木村 圭佑	滋賀	52p								40							7	5	
10	鈴木 龍	宮城	41p			3					30			8						
11	早川 朋宏	愛知	26p			3		3			20									
12	西村 大輝	東京	25p								25									
13	吉岡 直哉	京都	20p																5	15
14	入部 正太郎	奈良	19p			3			7		3	3							3	
15	岡 篤志	茨城	15p								15									
16	中根 英登	愛知	11p			3							3						5	
17	小林 海	東京	10p								10									
17	中島 康晴	福井	10p																5	5
17	平井 栄一	神奈川	10p									10								
20	山本 元喜	奈良	9p					5											4	

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

ツール・ド・北海道 2017 (2017/9/8-10 北海道)

個人総合成績

1	GARCIA Marcos	KIN	9:44:28
2	西菌 良太	BGT	9:44:34
3	TORIBIO Jose Vicente	MTR	9:44:40
4	BERLATO Giacomo	NIP	9:44:44
5	LEBAS Thomas	KIN	9:44:44
6	GUARDIOLA TORA Salvado	UKO	9:44:47

団体総合成績

1	NIPPO - ヴァーニファンテーニ	NIP	29:14:36
2	キーンサイクリングチーム	KIN	29:15:53
3	チーム右京	UKO29:16:09	

第1ステージ (156.7km)

1	鈴木 龍	BGT	3:36:03
2	DE NEGRI Pier Paolo	NIP	3:36:03
3	岡本 隼	AIS	3:36:03
4	BERLATO Giacomo	NIP	3:36:03
5	FERNANDEZ AYARZAGUENA Egoiz	UKO	3:36:03
6	鈴木 讓	BLZ	3:36:03

第2ステージ (182.3km)

1	岡本 隼	AIS	4:24:48
2	黒枝 咲哉	KAN	4:24:48
3	DE NEGRI Pier Paolo	NIP	4:24:48
4	吉田 隼人	MTR	4:24:48
5	鈴木 讓	BGT	4:24:48
6	畑中 勇介	UKO	4:24:48

第3ステージ (75.9km)

1	GARCIA Marcos	KIN	1:43:47
2	西菌 良太	BGT	1:43:49
3	TORIBIO Jose Vicente	MTR	1:43:53
4	LEBAS Thomas	KIN	1:43:53
5	BERLATO Giacomo	NIP	1:43:53
6	GUARDIOLA TORA Salvado	UKO	1:43:56

ポイント賞

1	岡本 隼	AIS	42p
---	------	-----	-----

山岳賞

1	冨尾 大地	KAN	13p
---	-------	-----	-----

チーム総合 U26

1	鹿屋体育大学	KAN29:27:35
---	--------	-------------

第48回 JBCF 全日本トラックチャレオンシップス (2017/9/10 静岡・伊豆パドーム)

男子スプリント

1	小西 昇平	東京	自転車処 風輪
2	林 竜広	愛知	チーム・フェアロ
3	武井 秀周	長野	イナメ信濃山形-EFT

男子1kmタイムトライアル

1	奥平 充男	京都	岩井商会	1:07.184
2	鴨下 拓弥	東京	ワカ和	1:07.778
3	小峰 烈	JPCA	B-SOUL	1:07.889

男子4km個人ハーフマラソン

1	新村 稔	茨城	CS Slinger	4:39.284
2	藤田 涼平	埼玉	サイタマサイクル	P4:47.082
3	太田 大揮	大阪	GALANTE	4:48.456

男子3km個人ハーフマラソン (ジュニア・U-15)

1	相原晴一郎	神奈川	横浜高校	4:05.206
---	-------	-----	------	----------

男子ケリソ

1	林 竜広	愛知	チーム・フェアロ
2	大村 慶二	神奈川	Team Logisty Jack
3	布施 義憲	東京	ワカ和

男子スクラッチ (10km)

1	新村 稔	茨城	CS Slinger	12:38.47
2	大前 翔	神奈川	東京ヴェントス	
3	中村龍太郎	千葉	イナメ信濃山形	

男子ポイントレース (30km)

1	浜田 大雅	大阪	EQADS	46p
2	高橋 伸成	静岡	FIETS GROEN	43p
3	大前 翔	神奈川	東京ヴェントス	43p

男子チームスプリント

1	ワカ和	佐柄・長尾・鴨下	50.499
2	Logisty Jack	山崎・斉藤・大村	50.515
3	湘南愛輪会	土谷・Burokema・奥津	51.596

男子チームハーフマラソン

1	ワカ和	真保・長尾・鴨下・山田	4:33.764
2	東京ヴェントス	小野寺・高木・柳沼・大前	4:33.826
3	イナメ信濃山形	中村・若佐・岸本・北澤	4:37.571

女子500mタイムトライアル

1	阿部 セラ	東京	ワカ和	38.922
2	小沼美由紀	埼玉	ワカ和	39.197
3	和地 恵美	神奈川	SUPER-K	39.332

女子3km個人ハーフマラソン

1	丹波佳奈美	青森	吉田産業	3:58.503
2	小沼美由紀	埼玉	ワカ和	4:10.814
3	平野 弓子	東京	ワカ和	4:12.886

女子2km個人ハーフマラソン

1	永野日和鈴	東京	成蹊高校	2:46.066
---	-------	----	------	----------

女子スクラッチ

1	丹波佳奈美	青森	吉田産業	13:08.31
---	-------	----	------	----------

女子チームスプリント

1	ワカ和	小沼・阿部	39.082
---	-----	-------	--------

日本スノーマスターズ 2017 兵庫大会 (2017/9/15-17 兵庫・明石)

男子第1部 (35歳以上、40歳未満)

男子スプリント

1	柴田 航	秋田	秋田市消防本部
2	太田 孝幸	岡山	同和エレクトロニクス
3	深澤 知章	群馬	キノソフトテニス

男子1kmタイムトライアル

1	鎌田 翔	大分	キャン 大分	1:09.95
2	鳶田 吉成	大阪	-	1:10.50
3	林 竜広	愛知	AGC 旭硝子	1:10.71

男子ケリソ

1	林 竜広	愛知	AGC 旭硝子
2	森 俊文	愛知	ミズタ自転車
3	鎌田 翔	大分	キャン 大分事業所

男子3km個人ハーフマラソン

1	金井 慎次	静岡	静岡ガス	3:55.46
2	爲國 孝志	山口	東ソー	3:56.85
3	山本 晃司	岡山	岡山村田	4:01.62

男子ポイントレース (1・2部)

1	松本 貞行	京都	ニゾウケック	20p
2	鬼形 博之	群馬	OCI	16p
3	趙誠 薫	韓国	-	14p

男子第2部 (40歳以上、45歳未満)

男子スプリント

1	堤谷 孝章	香川	高松工芸高教
2	佐野 陽三	富山	KATEKYOグループ
3	武田 秀明	長野	ミズ製作所

男子1kmタイムトライアル

1	堤谷 孝章	香川	高松工芸高教	1:11.03
2	松本 貞行	京都	ニゾウケック	1:12.34
3	土谷 学	茨城	日本ホリアロ	1:12.61

男子ケリソ

1	竹内 宏	兵庫	自営
2	仲松太一郎	沖縄	沖縄輪業
3	熊田 智成	香川	四電ビズネ

男子3km個人ハーフマラソン

1	石堂 大悟	福岡	-	3:43.03
2	岩佐 信吾	長野	デンソーワークス	3:48.60
3	武末 真和	千葉	東都生協	3:48.94

男子第3部 (45歳以上、50歳未満)

男子スプリント

1	水澤 耕一	東京	メガスポーツ
2	西村 均	島根	イワシ村田製作所
3	佐藤 研一	神奈川	富士金属

男子1kmタイムトライアル

1	水澤 耕一	東京	メガスポーツ	1:11.17
2	西村 均	島根	イワシ村田	1:11.79
3	荒上 光亮	福岡	チームファンサイクル	1:11.98

男子ケリソ

1	荒上 光亮	福岡	チームファンサイクル
2	渋谷 明	群馬	ツチダレーシング サイクル前橋
3	今村 有亨	京都	金生堂

男子3km個人ハーフマラソン

1	渋谷 明	群馬	ツチダレーシング	3:47.91
2	藤田 晃三	岩手	ブリヂストン	3:50.77
3	高橋 伸成	静岡	スズキ	3:51.12

男子ポイントレース (3・4部)

1	高橋 伸成	静岡	スズキ株式会社	39p
2	藤田 晃三	岩手	ブリヂストンサイクル	35p
3	山田 哲治	高知	宇治電化学工業	29p

男子第4部 (50歳以上、55歳未満)

男子500mタイムトライアル

1	古本 清文	富山	古本製作所	35.80
2	田中伊久男	奈良	消防組合	36.72
3	高橋 優功	秋田	湯沢市役所	36.95

男子スプリント

1	高橋 優功	秋田	湯沢市役所
2	古本 清文	富山	古本製作所
3	田中伊久男	奈良	広域消防組合

男子2km個人ハーフマラソン

1	矢野 賢児	高知	JKA	2:29.77
2	永瀬 泉	岡山	アキ製紙	2:40.89
3	小林 基裕	静岡	駿河生産	2:48.12

男子ケリソ

1	矢野 賢児	高知	JKA
2	羽田野隆彦	東京	大鵬薬品工業
3	高橋 伸二	岡山	岡山市教育委員会

男子第5部 (55歳以上、60歳未満)

男子500mタイムトライアル

1	濱中 康志	兵庫	フロンティア	37.76
2	越猪 澄	愛知	-	37.78

3 村田 修 大阪 村田自動車 37.88

男子スプリント

1 等々力公英 長野 長野県交通警備

2 -

3 竹田 一郎 大分 JR 貨物 大分

男子 2km 個人パシユート

1 安東 秀倫 岡山 河井郵便局 2:31.00

2 島袋 直樹 沖縄 STEP 2:37.77

3 飯田 義広 東京 モルト・ハネ 2:37.93

男子ケリソ

1 濱中 康志 兵庫 フロンティア

2 安東 秀倫 岡山 河井郵便局

3 門松 克己 大阪 -

男子ポイントレース (5・6 部)

1 田中 謙治 山口 周南警察署 16p

2 飯田 義広 東京 SC・モルト・ハネ 14p

3 島袋 直樹 沖縄 STEP 6p

男子第 6 部 (60 歳以上)

男子 500m タイムトライアル

1 羽鳥 浩 神奈川 大明建設 39.83

2 豊田 英久 静岡 - 40.30

3 若杉 平雄 愛知 自営 40.67

男子スプリント

1 羽鳥 浩 神奈川 大明建設

2 豊田 英久 静岡 -

3 若杉 平雄 愛知 自営

男子 2km 個人パシユート

1 渡辺 正彦 埼玉 アルフォーク 2:44.35

2 小田 秀明 静岡 - 2:46.87

3 駒谷 修 北海道 コグニビジョン 2:47.62

男子ケリソ

1 榎 敏晴 青森 ニトリ

2 村上 友徳 福岡 -

3 足立 享司 岡山 インテリア足立

女子 (35 歳以上)

女子スプリント

1 濱田 真子 東京 -

2 和地 恵美 神奈川 -

3 奥平 厚子 兵庫 ヤマト運輸

女子 500m タイムトライアル

1 和地 恵美 神奈川 - 39.44

2 小沼美由紀 埼玉 - 39.84

3 矢野 智子 京都 - 41.50

女子 2km 個人パシユート

1 小沼美由紀 埼玉 - 2:48.14

2 原田 悦子 徳島 - 2:50.99

3 中塚 祐佳 山口 - 2:54.57

Asian MTB Series - Timor Leste
International MTB Challenge (C1)
(2017/9/16 東ティモール・ティリ)

XCO 男子エリート

1 山本 公平 JPN 1:13:23

2 KAZANTSEV Kirill KAZ 1:14:35

3 沢田 時 JPN 1:17:10

7 平野 星矢 JPN 1:22:51

MTB CJ-1 ウイングヒルズ大会 DHI
(2017/9/16-17 岐阜・郡上市)

DHI 男子エリート

1 加藤 将来 愛知 Aki Factory 3:01.637

2 清水 一輝 愛知 Patrol mt. 3:05.781

3 泉野 龍雅 愛知 Aki Factory 3:06.556

DHI 女子エリート

1 安福 範子 愛知 ACCEL 4:18.889

2 富田 敬子 奈良 Acciarpone 4:24.274

3 吉川 千香子 愛知 DKMC 4:42.959

DHI 男子エリート

1 石井 日高 神奈川 MARSH 3:19.340

2 秋元 拓海 福島 PAXCYCLE 3:21.684

3 山田 淳一 愛知 重力技研 3:22.649

DHI 女子エリート

1 小林あかり 長野 安曇野 5:09.933

DHI 男子マタース

1 Gilsenan Paul 千葉 Nukeproof 3:34.228

2 三山 孝幸 石川 FRS 3:42.495

3 吉川 邦岳 愛知 DKMC 3:48.788

BMX スパノ-カスワ-ルトカップ第 5 戦
(2017/9/16 アルゼンチン・サンティアゴ)

男子エリート

1 TORRES Exequiel ARG

2 MOLINA Gonzalo ARG

3 ANDRE Sylvain FRA

16 長迫 吉拓 岡山 MX インターナショナル

25 吉村樹希敢 大阪 Gan Trigger

31 山口 大地 新潟 早稲田大学

41 中井 飛馬 新潟 日体大荏原高校

49 松下 巽 神奈川 早稲田大学大学院

52 島田 遼 広島 近畿大学泉州高校

53 吉井 康平 東京 MX インターナショナル

60 長谷川湧斗 茨城 流通経済大学

74 池上 泰地 大阪 クハラバクワークス

女子エリート

1 PAJON Mariana COL

2 SMULDERS Laura NED

3 CHRISTENSEN Simone Tetsche DEN

14 丹野 夏波 神奈川 白鷗女子高校

18 畠山 紗英 神奈川 白鷗女子高校

23 永禮 美瑠 愛知 西陵高校

BMX スパノ-カスワ-ルトカップ第 6 戦 (最終戦)
(2017/9/17 アルゼンチン・サンティアゴ)

男子エリート

1 FIELDS Connor USA

2 RAMIREZ YEPES Carlos Alberto COL

3 ANDRE Sylvain FRA

36 松下 巽 神奈川 早稲田大学大学院

37 長迫 吉拓 岡山 MX インターナショナル

41 中井 飛馬 新潟 日体大荏原高校

43 山口 大地 新潟 早稲田大学

50 吉井 康平 東京 MX インターナショナル

56 吉村樹希敢 大阪 Gan Trigger

59 池上 泰地 大阪 クハラバクワークス

69 島田 遼 広島 近畿大学泉州高校

72 長谷川湧斗 茨城 流通経済大学

女子エリート

1 PAJON Mariana COL

2 SMULDERS Laura NED

3 DIAZ Mariana ARG

17 丹野 夏波 神奈川 白鷗女子高校

19 永禮 美瑠 愛知 西陵高校

21 畠山 紗英 神奈川 白鷗女子高校

MTB CJ-1 妙高大会 XCO
(2017/9/23-24 新潟・妙高市)

XCO 男子エリート (28.0km)

1 平林 安里 長野 Specialized 1:06:11.54

2 宮津 旭 埼玉 PAXPROJECT 1:08:59.96

3 小坂 光 栃木 MIYATA 1:09:21.56

XCO 女子エリート (20.0km)

1 小林可奈子 長野 安曇野 1:04:52.38

2 佐藤 寿美 神奈川 drawer 1:06:59.94

3 橋口 陽子 東京 轍屋 1:07:46.29

XCO 男子ジュニア (20.0km)

1 小林 勇輝 長野 GRM 50:21.11

2 藤木 雄大 滋賀 ProRide 52:05.84

3 野村 拓未 長野 安曇野 52:43.92

XCO 女子ジュニア (12.0km)

1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 33:26.19

2 松本 璃奈 長野 GRM 38:19.74

XCO 男子マタース (20.0km)

1 小田島貴弘 神奈川 maillot SY 58:09.99

2 鈴木 敦夫 長野 松本キコックス 58:35.22

3 塩見 学 東京 B・B・Q 58:42.81

XCO 女子マタース (12.0km)

1 森 美穂子 埼玉 たぬぎ小屋 45:41.33

2 北島 優子 長野 パワースキップ 54:07.24

XCO 男子エリート (12.0km)

1 松本 一成 長野 SCOTT 31:14.00

2 中島 渉 埼玉 Limited846 31:47.99

3 川野 碧己 東京 Limited846 31:48.52

XCO 女子エリート (12.0km)

1 小林あかり 長野 安曇野 37:33.14

DHI 男子エリート

1 加藤 将来 愛知 Aki Fact. 3:53.922

2 金子 匠 東京 &stream 3:54.494

3 井本はじめ 千葉 Sram 3:54.887

DHI 女子エリート

1 吉川 千香子 愛知 DKMC 4:35.961

2 中川 弘佳 大阪 Lovespo 4:43.376

3 富田 敬子 奈良 Acciarpone 4:45.006

DHI 男子エリート

1 秋元 拓海 福島 PAXCYCLE 4:02.480

2 山田 淳一 愛知 重力技研 4:07.083

3 村上 宰 東京 fust 4:28.197

DHI 女子エリート

1 小林あかり 長野 安曇野 4:47.504

DHI 男子マタース

1 大野 良平 岐阜 KYB 含み損 4:06.645

2 吉川 邦岳 愛知 DKMC 4:05.341

3 Gilsenan Paul 千葉 Nukeproof 4:08.928

MTB CJ-1 白馬マウンテンバイク大会
(2017/10/1 長野・白馬村)

XCO 男子エリート (25.2km)

1 平林 安里 長野 Specialized 1:26:00.17

2 平野 星矢 長野 Anchor 1:28:05.24

3 沢田 時 滋賀 Anchor 1:28:50.35

XCO 女子エリート (16.8km)

1 小林可奈子 長野 安曇野 1:16:17.94

2 佐藤 寿美 神奈川 drawer 1:20:49.47

3 橋口 陽子 東京 轍屋 1:25:06.52

XCO 男子ジュニア (16.8km)

- 1 北林 力 長野 ProRide 1:01:21.71
- 2 小林 勇輝 長野 GRM 1:01:39.48
- 3 神永 真一 大阪 ProRide 1:01:54.01

XCO 女子ジュニア (12.6km)

- 1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 52:31.02
- 2 松本 璃奈 長野 GRM 59:12.63

XCO 男子マスターズ (16.8km)

- 1 酒居 良和 広島 マンテンポテト 1:09:07.51
- 2 小田島貴弘 神奈川 mailot SY1:09:09.08
- 3 鈴木 敦夫 長野 松本エキップス 1:12:40.36

女子マスターズ (12.6km)

- 1 北島 優子 長野 パワーステーツ 1:26:18.29

男子1-3 (12.6km)

- 1 松本 一成 長野 SCOTT 47:29.29
- 2 山口 創平 滋賀 ProRide 47:53.07
- 3 中島 渉 埼玉 Limited846 48:36.64

女子1-3 (8.4km)

- 1 小林あかり 長野 安曇野 38:37.16

第 72 回国民体育大会自転車競技会
(2017/10/1-5 愛媛・松山市、今治市)

成年男子 1km タイムトライアル

- 1 治田 知也 新潟 1:03.832
- 2 坂本 紘規 青森 1:04.528
- 3 山本 修平 東京 1:04.610

成年男子スプリント

- 1 小原 祐太 青森
- 2 坂井 洋 栃木
- 3 山根 将太 鳥取

成年男子ケリソ

- 1 寺崎 浩平 福井
- 2 照井 拓也 岩手
- 3 板倉 玄京 千葉

成年男子ポイントレース

- 1 雷尾 大地 鹿児島 41p
- 2 倉林 巧和 群馬 36p
- 3 中井 唯晶 滋賀 29p

成年男子スクラッチ

- 1 新村 穰 茨城
- 2 孫崎 大樹 京都
- 3 高橋 綜一郎 大分

男子チームタイムトライアル

- 1 福岡 今村・橋本・原井・児島 4:15.658
- 2 富山 近谷・大浦・南儀・村田 4:17.411
- 3 熊本 白垣・松本・兼本・佐藤 4:21.350

男子チームスプリント

- 1 青森 小原・坂本・磯島 1:14.602
- 2 福島 橋本・角田・石井 1:16.119
- 3 宮城 荒井・沢田・中井 1:15.477

少年男子 1km タイムトライアル

- 1 山根 慶太 鳥取 1:07.683
- 2 松本秀乃介 熊本 1:08.059
- 3 町田 太我 広島 1:08.144

少年男子スプリント

- 1 中野 慎詞 岩手
- 2 宇賀神怜真 栃木
- 3 黒瀬浩太郎 広島

少年男子ケリソ

- 1 田仲 駿太 大分
- 2 川副 雷斗 熊本

3 石川 洋輝 福島

少年男子ポイントレース

- 1 児島 直樹 福岡 24p
- 2 細田 悠太 鹿児島 18p
- 3 日野 泰静 愛媛 16p

少年男子スクラッチ

- 1 細中 翔太 岡山
- 2 矢光 孝輔 山梨
- 3 宮崎 大空 熊本

女子ケリソ

- 1 児玉 碧衣 福岡
- 2 柳原 真緒 福井
- 3 石井 寛子 東京

女子スクラッチ

- 1 吉川 美穂 和歌山
- 2 岡本 二葉 東京
- 3 石上 夢乃 神奈川

女子チームスプリント

- 1 東京 石井・岡本 56.731
- 2 福岡 児玉・平井 57.038
- 3 福井 中村・柳原 57.378

成年男子ポイントレース

- 1 草場 啓吾 京都 2:56:50.3
- 2 近谷 涼 山梨 2:56:52.4
- 3 孫崎 大樹 京都 2:56:52.4
- 4 岡部 祐太 広島 2:56:52.5
- 5 石井 駿平 群馬 2:56:52.5
- 6 黒枝 咲哉 大分 2:56:52.5

少年男子ポイントレース

- 1 西原裕太郎 奈良 3:09:50.7
- 2 佐藤 健 熊本 3:09:50.8
- 3 依田 翔太 山梨 3:09:50.9
- 4 日野 凌羽 愛媛 3:09:51.0
- 5 松田 祥位 岐阜 3:09:51.1
- 6 仮屋 和駿 和歌山 3:09:51.3

男女総合成績 (天皇杯)

- 1 福岡 91p
- 2 熊本 72p
- 3 東京 70p

女子総合成績 (皇后杯)

- 1 東京 47p
- 2 福岡・福井 39p
- 3 和歌山 33p

国体自転車 10 回以上出場選手表彰

- 入部正太郎 奈良
野中 竜馬 広島
柴崎 俊祐 愛媛

MTB CJ-U 山口・十種ヶ峰国際サイクル
UCI-C2 (2017/10/7-8 山口・山口市)

DHI 男子エリート

- 1 井本はじめ 千葉 Sram 3:00.781
- 2 清水 一輝 愛知 Patrol mt. 3:02.229
- 3 加藤 将来 愛知 Aki Fact. 3:07.753

DHI 女子エリート

- 1 中川 弘佳 大阪 Lovespo 4:10.060
- 2 富田 敬子 大阪 Acciarpone 4:18.673
- 3 TSAI Chi Ling TPE Taichung 4:27.073

DHI 男子マスターズ

- 1 松沢 俊也 大阪 Ringoroad 3:36.916
- 2 深見 直人 東京 重力技研 3:46.477

3 藤山 智彦 大阪 シノドリレーシング 3:49.329

男子1-3

- 1 石井 日高 神奈川 MARSH 3:27.893
- 2 山田 淳一 愛知 重力技研 3:29.172
- 3 古城 栄翔 広島 Commencal 3:32.231

2017 Sun Hung Kai Properties
Hong Kong Challenge (UCI1.1)

(2017/10/8 荊コソ・チャイ)

男子個人ロードレース

- 1 MOHORIC Matej SLO 2:35:57
- 2 HUCKER Robbie AUS 2:36:02
- 3 新城 幸也 JPCA BAHARAIN 2:37:11
- 12 小野寺 玲 栃木 フリッツェン 2:39:17
- 20 中根 英登 愛知 NIPPO 2:42:38
- 35 山本 大喜 奈良 鹿屋体育大学 -1 lap
- 47 石上 優大 神奈川 EQADS -1 lap
- 48 入部正太郎 奈良 シノドリレーシング -1 lap

MTB CJ-1 富士見パワマ大会

(2017/10/14-15 長野・富士見町)

DHI 女子エリート

- 1 吉川千香子 愛知 DKMC 3:53.999
- 2 岩崎美智恵 神奈川 Tripcycle 4:08.438
- 3 中川 弘佳 大阪 Lovespo 4:11.966

DHI 男子エリート

- 1 井本はじめ 千葉 Sram 2:47.735
- 2 九島 勇気 神奈川 玄武 2:50.641
- 3 浅野 善亮 愛知 GIANT 2:53.091

DHI 男子マスターズ

- 1 GILSENAN Paul 千葉 Nukeproof 3:15.293
- 2 吉川 邦岳 愛知 DKMC 3:23.605
- 3 望月 克彦 静岡 MARSH 3:24.004

DHI 男子1-3

- 1 山田 淳一 愛知 重力技研 3:02.091
- 2 秋元 拓海 福島 Paxcycle 3:06.427
- 3 石井 日高 神奈川 MARSH 3:19.523

DHI 女子1-3

- 1 小林あかり 長野 安曇野 4:21.009

XC エリート

- 1 澤木 紀雄 東京 acu-power Racing
- 2 小笠原崇裕 東京
- 3 野村 拓未 長野 MTB クラブ 安曇野

XCO 男子エリート (20.9km)

- 1 平林 安里 長野 Specialized 1:21:02.85
- 2 小坂 光 栃木 MIYATA 1:24:58.83
- 3 沢田 時 滋賀 Anchor 1:25:38.82

XCO 女子エリート (16.72km)

- 1 今井 美穂 群馬 SCOTT 1:29:43.18
- 2 佐藤 寿美 神奈川 drawer 1:31:44.40
- 3 早瀬 久美 神奈川 ろう自転車 1:40:13.85

XCO 男子ジュニア (16.72km)

- 1 北林 力 長野 ProRide 1:10:32.21
- 2 小林 勇輝 長野 GRM 1:12:51.11
- 3 村上功太郎 愛媛 松山工高 1:14:23.02

XCO 女子ジュニア (12.54km)

- 1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 57:41.07
- 2 松本 璃奈 長野 GRM 1:07:15.63
- 3 山田 夕貴 北海道 BG8 1:09:16.00

XCO 男子マスターズ (16.72km)

- 1 浅井 秀樹 埼玉 USM 1:19:34.05

- 2 塩見 学 東京 USM 1:20:44.61
3 小田島貴弘 神奈川 mailot SY1:21:18.00

XCO 女子マスターズ (12.54km)

- 1 辻 瑞穂 神奈川 Paxproject 1:24:00.77
2 北島 優子 長野 ハワースポーツ1:38:02.76

XCO 男子ユース (16.72km)

- 1 松本 一成 長野 SCOTT 1:09:46.97
2 中島 渉 埼玉 Limited 8461:10:47.86
3 上野悠佑太 東京 GRM 1:11:47.37

XCO 女子ユース (8.36km)

- 1 小林あかり 長野 安曇野 41:14.55

MTB CJ-1 深里自然の森 XCO
(2017/10/22 山口・下関市)

XCO 男子トリート (22.8km)

- 1 平林 安里 長野 Specialized 1:19:11.00
2 小野寺 健 神奈川 drawer 1:24:07.93
3 竹内 遼 神奈川 drawer 1:25:18.90

XCO 女子トリート (11.4km)

- 1 佐藤 寿美 神奈川 drawer 56:29.53
2 真川 好美 愛知 Nipopo 1:04:25.03

XCO 男子ジュニア (11.4km)

- 1 神永 真一 大阪 ProRide 43:07.11
2 野村 拓末 長野 安曇野 44:11.07
3 小林 勇輝 長野 GRM 45:10.91

XCO 女子ジュニア (7.6km)

- 1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 32:02.04
2 松本 璃奈 長野 GRM 35:01.72
3 山田 夕貴 北海道 BG8 36:30.93

XCO 男子マスターズ (15.2km)

- 1 酒居 良和 広島 マウンテン1:05:09.70
2 浅井 秀樹 埼玉 USM 1:09:13.27
3 檜垣 良一 愛媛 焼鳥山鳥1:11:27.39

XCO 男子ユース (7.6km)

- 1 山口 創平 滋賀 ProRide 27:41.40
2 松本 一成 長野 SCOTT 28:58.02
3 岡山 優太 福岡 MASAYA 30:26.68

XCO 女子ユース (7.6km)

- 1 小林あかり 長野 安曇野 34:55.90

MTB CJ-2 京都ゆふね Stage XCO
(2017/10/29 京都・和束町)

XCO 男子トリート (16.4km)

- 1 大淵 宏紀 大阪 DECOJA 51:13.00
2 上野 亮 愛媛 INFINITY 52:18.63
3 かがみ 浩一 愛知 カトリモニク 52:45.63

XCO 女子トリート (8.2km)

- 1 平田 千枝 奈良 La.sista 35:03.67

XCO 男子ジュニア (12.3km)

- 1 神永 真一 大阪 ProRide 36:22.48
2 久保 一真 滋賀 ProRide 38:44.12

XCO 男子マスターズ (8.2km)

- 1 赤坂 佳紀 栃木 RIDE to FUN 28:58.24
2 宮城 義一 京都 La.sista 29:57.34
3 星野 貴哉 愛知 ヌッサース 30:44.25

男子ユース (8.2km)

- 1 副島 達海 大阪 Limited846 26:18.82
2 寺崎 亮行 神奈川 YRT99 38:18.89
3 鈴木 広直 神奈川 YRT99 43:59.77

2017-18 UCIトラックワールドカップ 第1戦
(2017/11/3-5 ホーランド・フルシコ)

男子スプリント

- 1 GLAETZER Matthew AUS
2 RUDYK Mateusz POL
3 DAWKINS Edward NZL
15 河端 朋之 JPN JPC
22 脇本 雄太 JPN JPN
28 新田 祐大 JPN DSR

男子ケリ

- 1 BUCHLI Matthijs BCC
2 EILERS Joachim GER
3 VIGIER Sebastien FRA
11 新田 祐大 JPN DSR
12 脇本 雄太 JPN JPN
30 渡邊 一成 JPN JPC

男子チームスプリント

- 1 フランス NED 42.906
2 フランス FRA 43.528
3 イギリス GBR 43.192
9 JPC 雨谷・河端・渡邊 44.019
11 DSR 深谷・長迫・新田 44.391

女子スプリント

- 1 VOGEL Kristina GER
2 MORTON Stephanie AUS
3 GROS Mathilde FAR
17 小林 優香 JPN JPN
24 前田佳代乃 JPN JPC

女子ケリ

- 1 VOGEL Kristina GER
2 SHMELEVA Daria RUS
3 MORTON Stephanie AUS
7 小林 優香 JPN JPN
25 太田 りゆ JPN JPC

女子チームスプリント

- 1 ドイツ GER 32.668
2 フランス NED 33.238
3 ロシア RUS 32.631
12 JPC 前田・太田 34.257

2017-18 UCIトラックワールドカップ 第2戦
(2017/11/10-12 イギリス・マンチェスター)

男子スプリント

- 1 LAVREYSEN Harrie NED
2 RUDYK Mateusz POL
3 GLAETZER Matthew AUS
24 脇本 雄太 JPN JPC

男子1km タイムトライアル

- 1 GLAETZER Matthew AUS 1:00.081
2 ENGLER Eric TTB 1:01.085
3 SKINNER Callum OPM 1:01.161
13 深谷 知広 JPN DSR 1:02.260

男子ケリ

- 1 BUCHLI Matthijs BCC
2 VYNOKUROV Andrii UKR
3 PERALTA GASCON Juan ESP
5 新田 祐大 JPN DSR
13 河端 朋之 JPN JPC

男子チームスプリント

- 1 THOMAS Benjamin FRA
2 LARSEN Niklas DEN
3 TORRES BARCELO Albert ESP
15 今村 俊介 JPN JPN

男子チームスプリント

- 1 GER 43.095
2 BCC (NED) 43.542
3 NED 43.426
10 DSR 長迫・新田・深谷 44.301
11 JPC 雨谷・河端・脇本 44.533

女子スプリント

- 1 VOGEL Kristina GER
2 VAN RIESSEN Laurine MPC
3 VOINOVA Anastasiia RUS
15 前田佳代乃 JPN JPC
25 太田 りゆ JPN JPN

女子ケリ

- 1 VOGEL Kristina GER
2 BRASPENNINX Shanne NED
3 VAN RIESSEN Laurine MPC
9 小林 優香 JPN DSR
12 前田佳代乃 JPN JPC
17 太田 りゆ JPN JPN

女子スクラッチ

- 1 BARBIERI Rachele ITA
2 YANG Qianyu HKG
3 D'HOORE Jolien BEL
6 鈴木 奈央 JPN JPN

女子チームスプリント

- 1 VALENTE Jennifer USA
2 ARCHIBALD Katie GBR
3 DIDERIKSEN Amalie DEN
6 梶原 悠未 JPN JPN

女子マディソン

- 1 GBR
2 BEL
3 ITA
12 JPN 梶原・古山

女子チームパシュート

- 1 GBR 4.16.803
2 ITA 4.21.562
3 JPN 中村・梶原・橋本・古山・鈴木 4.28.668

ツール・ド・おきなわ2017

(2017/11/12 沖縄)

チャリティロードレース (210km)

- 1 佐野 淳哉 JPN MTR 5:28:48
2 JEROEN KERS Koos WTCA 5:28:48
3 畑中 勇介 JPN UKO 5:28:48
4 CRAWFORD Jai KIN 5:28:48
5 吉岡 直哉 JPN NAS 5:28:48
6 SAI UDOMSIN Phuchong THA 5:28:48

女子国際ロードレース (100km)

- 1 Ellen van Dijk WTC 3:10:57
2 與那嶺恵理 茨城 FDJ 3:10:57
3 中井 彩子 鹿児島 鹿屋体育大 3:12:39
4 合田祐美子 岡山 BH 3:19:40
5 牧瀬 翼 大阪 3:19:40
6 櫻木 祥子 東京 Aventura 3:19:40

ジュニア国際ロードレース (140km)

- 1 細田 悠太 鹿児島 南大隅高校 4:06:00
2 吉原 愛貴 香川 石田高校 4:06:01
3 成海 大聖 沖縄 普天間高校 4:06:01
4 古林 一夢 石川 南大隅高校 4:06:02
5 天野 壮悠 大阪 千里高校 4:06:02
6 Victor Broex NED WTC 4:06:02

2017-2018トラックワールドカップ第1戦**日本代表選手団**

大会名 2017-2018UCIトラックワールドカップ第1戦

大会期間 2017年11月3日～5日

派遣期間 2017年10月29日～11月6日

開催場所 ポーランド・プルシコフ

代表選手団

監督 ブノア・ベトゥ（短距離ヘッドコーチ）

コーチ ジェイソン・ニブレット（短距離コーチ）

メカニック 森 昭雄（強化支援スタッフ）

齊藤 健吾（強化支援スタッフ）

マッサー 中山 真臣（強化支援スタッフ）

スタッフ 田畑 昭秀（情報科学スタッフ）

ドクター 内田 彰子（強化医科学部会員）

通訳 アリス・ボナミ

総務 尾崎 由佳

選手

<ナショナルチーム>

脇本 雄太（JPCA・JPCU 福井）

小林 優香（JPCA・JPCU 福岡）

<ジャパンプロサイクリングチーム>

渡邊 一成（JPCA・JPCU 福島）

河端 朋之（JPCA・JPCU 岡山）

雨谷 一樹（JPCA・JPCU 栃木）

前田佳代乃（京都）

太田 りゆ（JPCA・JPCU 埼玉）

<ドリームシーカーチーム>

新田 祐大（JPCA・JPCU 福島）

深谷 知広（JPCA・JPCU 愛知）

長迫 吉拓（岡山）

2017-2018トラックワールドカップ第2戦**日本代表選手団**

大会名 2017-2018UCIトラックワールドカップ第2戦

大会期間 2017年11月10日～12日

派遣期間 2017年11月5日～14日

開催場所 イギリス・マンチェスター

代表選手団

監督 ブノア・ベトゥ（短距離ヘッドコーチ）

コーチ ジェイソン・ニブレット（短距離コーチ）

イアン・メルビン（中距離ヘッドコーチ）

メカニック 森 昭雄（強化支援スタッフ）

齊藤 健吾（強化支援スタッフ）

マッサー 中山 真臣（強化支援スタッフ）

石田 将之（強化支援スタッフ）

スタッフ 田畑 昭秀（情報科学スタッフ）

ドクター 内田 彰子（強化医科学部会員）

通訳 アリス・ボナミ

通訳 細井 茜

総務 尾崎 由佳

選手

<短距離ナショナルチーム>

渡邊 一成（JPCA・JPCU 福島）

太田 りゆ（JPCA・JPCU 埼玉）

<ジャパンプロサイクリングチーム>

脇本 雄太（JPCA・JPCU 福井）

河端 朋之（JPCA・JPCU 岡山）

雨谷 一樹（JPCA・JPCU 栃木）

前田佳代乃（京都）

<ドリームシーカーチーム>

新田 祐大（JPCA・JPCU 福島）

深谷 知広（JPCA・JPCU 愛知）

長迫 吉拓（岡山）

小林 優香（JPCA・JPCU 福岡）

<中距離ナショナルチーム>

今村 駿介（福岡・中央大学）

中村 妃智（千葉・日本体育大学/日本写真判定株式会社）

鈴木 奈央（JPCA・JPCU 静岡）

梶原 悠未（埼玉・筑波大学）

橋本 優弥（岐阜・鹿屋体育大学）

古山 稀絵（東京・日本体育大学）

**2017年UCI URBAN CYCLING
WORLD CHAMPIONSHIPS 日本代表選手団**

大会名 2017年UCI URBAN CYCLING

WORLD CHAMPIONSHIPS

大会期間 平成29年11月8日～12日

開催場所 中華人民共和国・CHENGDU

実施競技 トライアル・BMXフリースタイル

・MTBクロスカントリーエリミネーター

代表選手団 **トライアル**

監督 塩崎 正貴（強化支援スタッフ）

選手 寺井 一希（埼玉・チームハリケーン）E20

土屋 凌我（長野・岩村田高校）J20

高橋 靖矢（埼玉・北本高校）J20

豊澤 剛（埼玉・坂戸高校/チームハリケーン）J20

塩崎 太夢（山梨）J26

フリースタイル

監督 出口 智嗣（強化支援スタッフ）

メカニック 中村 辰司（強化支援スタッフ）

選手 中村 輪夢（京都・京都つくば開成高校）

高木 聖雄（愛知・JFBF）

西 高世（三重・RampWest）

大西 勘弥（岐阜・モトクロスインターナショナル）

上田 崇人（福岡・九州産業高校）

大霜 優馬（神奈川・第一学院高校）

太田 蓮（広島・安芸南高校）

大池 水杜（神奈川）

クロスカントリーエリミネーター

監督 小笠原崇裕（強化支援スタッフ）

選手 澤木 紀雄（東京・acu-power Raching Team）

小笠原崇裕（東京）

野村 拓未（長野・MTBクラブ安曇野）

2017 Sun Hung Kai Properties Hong Kong Challenge**日本代表選手団**

大会名 2017 Sun Hung Kai Properties

Hong Kong Challenge (UCI1.1)

大会期間 2017年10月8日

派遣期間 2017年10月7日～9日

開催場所 香港チャイナ

代表選手団

監督 浅田 顕（JCF強化コーチ）

メカニック 高橋 優平（JCF強化支援スタッフ）

選手 新城 幸也（JPCA・BAHARAIN MERIDA）

中根 英登（愛知・NIPPO-VINI FANTINI）

入部正太郎（奈良・シマノレーシング）

小野寺 玲（栃木・宇都宮ブリッツエン）

山本 大喜（奈良・鹿屋体育大学）

石上 優大（神奈川・EQADS/AVC AIX EN PROVENCE）

マウンテンバイク Coupe du Japan 年間チャンピオン

●クロスカントリー

XCO 男子エリート

1 平林 安里 長野 SPECIALIZED

XCO 女子エリート

1 小林可奈子 長野 MTB クラブ 安曇野

XCO 男子ジュニア

1 北林 力 長野 Proride

XCO 女子ジュニア

1 川口うらら 兵庫 Sonic Racing

XCO 男子マスターズ

1 酒居 良和 広島 マウンテン☆ポテト

XCO 女子マスターズ

1 北島 優子 長野 ハウスホーツ・SICK

XCO 男子1-ス

1 松本 一成 長野 Team Scott

XCO 女子1-ス

1 小林あかり 長野 MTB クラブ 安曇野

XCO チーム

1 Bridgestone Anchor Cyclingteam

●ダウンヒル

DHI 男子エリート

1 清水 一輝 愛知 Patrol mountain

DHI 女子エリート

1 中川 弘佳 大阪 Lovespo.com

DHI 男子マスターズ

1 GILSENAN Paul千葉 Nukeyproof

DHI 男子1-ス

1 秋元 拓海 福島 PAXCYCLE

DHI 女子1-ス

1 小林あかり 長野 MTB クラブ 安曇野

DHI チーム

1 Acciarpone bikes

連盟の動き (10月上旬～11月中旬)

10月 5日 第6回トラック中距離強化合宿

16日 第3回選手強化委員会

25日 第7回トラック中距離強化合宿

11月 2日 第2回ロード競技部会

13日 第1回医事委員会

15日 ロード測定合宿

16日 第4回広報部会

於：静岡・伊豆ペロドローム (～13日)

於：東京・JCF会議室

於：静岡・伊豆ペロドローム (～11/9)

於：東京・JCF会議室

於：東京・JCF会議室

於：東京・国立スポーツ科学センター JISS (～17日)

於：東京・JCF会議室

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
12月1日～3日	2017-18 UCIトラックワールドカップ第3戦	TR	カナダ・ミルトン
12月2日～3日	第1回全日本BMX フリースタイル・パーク選手権大会	BMX	岡山県・岡山市北区 下石井公園
12月9日～10日	2017-18 UCIトラックワールドカップ第4戦	TR	チリ・サンティアゴ
12月9日～10日	第23回シクロクロス全日本選手権大会	CX	長野県・南佐久郡滝沢牧場
12月16日～17日	全日本選手権自転車競技大会-室内自転車競技	Indoor	大阪府・和泉市 桃山学院大学
1月19日～21日	2017-18 UCIトラックワールドカップ第5戦	TR	ベラルーシ・ミンクス
2月3日～4日	UCI世界選手権大会-シクロクロス	CX	オランダ・ファルケンブルフ
2月8日～12日	第37回アジア自転車競技選手権大会ロードレース	RR	ミャンマー・ネービード
2月16日～20日	第37回アジア自転車競技選手権大会トラックレース	TR	マレーシア・ニライ
2月28日～4日	トラック世界選手権	TR	オランダ・アペルドールン

Kabuto
the phenomenon



f t o i
www.ogkkabuto.co.jp



2017年UCIロード世界選手権大会

松田が男子ジュニアTTで20位!

	2017 ROAD WORLD CHAMPIONSHIPS	BERGEN NORWAY
--	--------------------------------------	----------------------

男子エリート

9月18日

女子ジュニア タイムトライアル

2017ロード世界選手権は9月17日からノルウェーのベルゲンで始まった。9月18日から3日間開催される個人タイムトライアルに日本チームはジュニア男女、U23男子、エリート女子のカテゴリーに参加する。

9月18日午前に行なわれたジュニア女子タイムトライアルには下山美寿々が出走。ジュニア女子はアップダウン、そして石畳区間を含むベルゲンの街を1周回する16.1kmのコースで争われた。

8月のヨーロッパ選手権タイムトライアルで優勝したイタリアのElena PIRRONEが、この日も実力通り優勝し、2位にもイタリアのAlessia VIGILIAが入り、イタリアの2名が3位以下の選手に大きなタイム差をつけた。

小雨がばらつく中のスタートとなった下山は安定したペースで走り切ったが、上位陣とはコーナー技術と緩い登り区間でのパワーに差があり、優勝者から2分31秒差の30位であった。

(柿木孝之)

男子U23 タイムトライアル

個人タイムトライアルとしてはテクニカルで、急勾配を含むアップダウンの多いサーキットで開催された。日本から出場の小野寺と岡は厳しいコースで苦戦し、平均速度43km/h前後で走り切り、それぞれ43位と44位の成績となった。優勝は唯一平均速度47km/h台で走り切ったデンマークのBJERG。

フラット基調のTTでは、上位の選手は50km/hオーバーの速度で走る。全日本選手権タイムトライアルのエリートクラスで上位の小野寺と岡の成績は、日本人のタイムトライアルレベルそのものの評価として受け入れて、今後強化して行きたい。(浅田 顕)

9月19日

世界選手権タイムトライアル2日目は午前中にジュニア男子、午後にはエリート女子のカテゴリーが、ベルゲンの街を周回する21.1kmで競われた。途中12%以上の勾配区間を含む1.4kmの登り区間があるが、コース全体でのコーナーの技術、ライン取り、バイクコントロール能力もタイム差を左右する。

男子ジュニア タイムトライアル

ジュニア男子には日本チームから松田祥位が参加し、この種目では日本ジュニア過去最高位となる、優勝者から58秒差の20位に入った。8月にはJISSの協力も得て、風洞に入りTTポジションを再確認し、またTTバイクのコントロールのトレーニングも行ない10位以内を狙って臨んだが、力だけではなくコーナーでのバイクコントロール技術の差も出てタイムを失った。脚力だけでは10位以内も可能な走りだっただけに、TTバイクを操る能力を向上させれば、今後に大きく期待が持てる。23日のロードレースで松田は、ジュニアチームのエースとして臨む。

優勝はイギリスのThomas PIDCOCK

で、ロードではジュニアのネイションズカップのパリルーベに次いでビッグレースを制した。今年の複数のジュニアネイションズカップ、そして8月のヨーロッパ選手権もタイムトライアルで優勝している地元ノルウェーのAndreas LEKNNESUNDは、勾配のある登り頂上まではトップタイムであったが、ペース配分を完全にミスして後半に失速した。

女子エリート タイムトライアル

エリート女子はコースの一部が雨が降る中で、ジュニア男子と同じコースで行われた。日本からは梶原悠未と與那嶺恵理が参加した。

梶原は勾配のある登り区間で失速し、そのままリズムを戻せず44位に終わった。與那嶺は登り区間を軽いギアで回し順位を上げたが、後半平坦区間でタイムを失い22位となった。

オランダのAnnemiek VAN VLEUTENが、ジュニア男子の18位に相当するタイムで優勝した。2位にAnna VAN DER BREGGEN、5位にEllen VAN DIJKが入り、オランダの3名が上位を独占した。(柿木孝之)

9月22日

女子ジュニア ロードレース

9月22日の午前に行なわれたジュニア女子ロードには、下山美寿々が出走した。コースは1周19.1kmのベルゲンの街を4周する76.4kmで、TTのコースと重複する部分が多い。メインとなる1.5kmの登りと、その前のアップダウンが選手をふるいにかける。



女子ジュニアの下山

レースは雨がばらつく中、92名の選手がスタートした。落車の起こりやすいロータリーもあるため、選手はスタートと同時に一斉にスプリントをかけて位置取りを行なう。1周目の登り区間で集団は30人ほどに絞られ、その中で下山は余裕を持って対応する。その後の平坦区間で再び集団は大きくなるが、2周目の登りでは25名ほどが抜け出し、30秒ほどのタイム差を集団につける。下山も先頭集団の中に入り良い展開であったが、平坦区間で集団は再び一つになる。3周目は登り口からオーストラリアのMadeleine FASNACHTがアタックをかけて集団のペースも上がり、16名の先頭集団を形成される。そこからTT世界チャンピオンになったばかりのElena PIRRONEが独走を開始し、15名の追走集団に10秒から15秒のタイム差をつけて逃げ続ける。下山はこの登りでの攻撃で先頭集団に残れず、その次の7名ほどで第2集団を形成する。Elena PIRRONEはそのままゴールまで逃げ続け、力の差を見せつけてTTとダブルタイトルを獲得した。

下山の集団は前に追いつけず、遅れていた選手も合流して大きな集団となり、下山は4分12秒差で26位となった。3周目の登りは先頭グループに残るために、あとひと踏みが出来なかった。ただ先頭グループが形成されていくのを目の当たりにし、世界のトップジュニアとの具体的な差を感じ取ることが出来たこと。昨年、今年と世界選手権に向けて、夏休みはベルギーでレース活動を行ない準備してきたこと。今回結果こそは残せなかったが、これらの経験が来年からのエリートでの活動に良い糧となるように期待している。(柿木孝之)

男子 U23 ロードレース

BERGEN市街地に特設された1周19.1kmのサーキットには、複数の短い登り区間と石畳があり、周回を重ねるごとに消耗に繋がるコース。日本チームは雨澤をメインに目標15位以内を狙う。

レースはスタートから岡と山本を含む6名が先行し逃げグループを形成する。一方ホストチームノルウェーと隣国デンマークがペースをコントロールするメイン集団では、雨澤、岡本、小野寺が本格的なペースアップに備える。本格的なペースアップは10周中ラスト4周目で、攻撃型の主力選手による追走が出来、しかもその勢いは

一気に岡と山本の逃げグループを破壊し、新しい先頭グループを形成。しかし集団も複数の主力国のペースアップで吸収し、レースはいよいよ最終回へ突入。そして最後の坂で先頭グループは40人に絞られるが、好位置で終盤に突入した雨澤と岡本はあと一步のところで残る事が出来ず、U23チームの目標達成には及ばなかった。今回は警戒した雨や低温の影響が少なく、目標順位を残すための展開にも恵まれながら、近年では最高の実力を持つ今年のU23代表チームをして、あと



スタート前の男子 U23



男子 U23 の山本(右)と岡



男子 U23 の小野寺



男子U23の岡本



男子U23の雨澤

松田祥位、蠣崎優仁、小野寺慶の3名で臨む。

レースは190名がスタートしてすぐに落車が頻発する。ジュニアレースはネイションズポイント獲得に関係なく参加枠がもらえるため、国際レースが初めての選手も多く危険が多い。小野寺が周回コースに入るまでに2回落車に巻き込まれるが、ホイール交換で何とか復帰する。周回コースに入っても落車が続く、集団内は緊張した状態が続く。日本チームのエースの松田も落車に巻き込まれ、集団最後方に追いやられるが、自力で復帰しメイングループにとどまる。3周目にはレース前半からの落車による脚止めの連続で、脚を使った蠣崎、小野寺が遅れる。優勝候補の選手らでさえも落車のトラブルにより、レース中盤で複数名が遅れる。4周目の登りでは、逃げグループを追いかける形で松田が集団先頭でペースを上げる。集団が分かれる

場面でも松田は前で粘る。ラスト周回ではデンマークのスピードに定評のあるJulius JOHANSENが1人抜け出し、松田の集団から30秒ほどのタイム差を維持する。登り区間でメイン集団はいくつかに分断され、松田は第2集団にとどまるが、その後の平坦区間で第2集団を強力に引っ張り、前のグループに追いつく。しかし1人で逃げたJulius JOHANSENの走りは素晴らしく、そのまま独走優勝した。6月のドイツのネイションズカップでは圧倒的な力をみせ、今大会のTTの優勝候補であったものの6位に終わったが、ロードで実力をみせた。松田は40人強の2位争いの集団で、スプリントできず28位にとどまった。

毎年落車の多いジュニアの世界選手権ロードではあるが、今年は例年以上に多くの落車が起り、危険な状態が続いた。その中で松田は自分で脚を使いながら位置取りを行ない、結果



男子ジュニアの松田

少しの力と連携が足りなかった。U23については2018年の新しいシーズンの事を早速明日から考え、より強力なチーム作りを行ってゆきたい。

(浅田 顕)

**9月23日
男子ジュニア ロードレース**

ジュニア男子ロードはベルゲンから40kmほど離れた街をスタートして、ジュニア女子と同じベルゲンの19.1kmの周回コースを5周する133.8kmで争われた。日本チームは



男子ジュニアの小野寺



男子ジュニアの蠣崎



は残せなかったものの強力な走りを見せた。上位に入った選手と比べてヨーロッパでのレース経験が圧倒的に少なく、他国の選手に頼らない不器用な走りではあったものの、TTに続き今後非常に大きな可能性を感じる走りであった。(柿木孝之)

女子エリート ロードレース

エリート女子ロードは、ジュニア男子と同じベルゲンの19.1kmの周回コースを8周する152.8kmで争われた。日本からは與那嶺恵理、梶原悠未の2選手が参加した。

レースはスタートしてからタイム差のつく大きな逃げは起こらず、淡々と速いペースで進む。1周目の登りで早くも多くの選手が遅れ、梶原も厳しかったが集団に復帰する。4周目の登りではペースが上がり、この時点で梶原は集団から遅れる。登り区間以外もアップダウン区間、緩い登り区間、石畳区間があり、集団内でも休める区間は少ない。脚を削られていく中7周

目の登りで、集団に大きな動きがあり與那嶺も遅れる。その後の平坦区間でメイン集団に追いついたが、最終週の登りのペースアップには対応できず50位に終わった。

レースは強力なメンバーを揃えたオランダが、人数を減らした集団内でも数を残し、最終局面ではChantal BLAAKが抜け出しそのまま逃げ切った。

今年の世界選手権はじわじわと脚にくるコース設定で、集団もペースダウンする場面はあまり見られず、力のある選手しか前に残れない展開となった。(柿木孝之)

9月24日

男子エリート ロードレース

世界選手権を締めくくる男子エリートは、ライン区間と周回コースの複合267.5kmの長丁場で世界一を決める。国別世界ランキングにより日本に与えられた1名の出場枠に新城幸也が出場した。レースは10名がスタートか

ら先行し、約10分の大差で周回コースに入る。メイン集団はホスト国のノルウェーを中心にペースを作り、徐々に差を詰めて残り約100kmで吸収し、終盤に向けて主力国を中心に本格的なアタックとペースアップが激しくなる。新城は主力国らのペースアップに対し、強豪ひしめく集団の中を単独でポジションを上げて行き、70名程に絞られ長く伸びた集団の20～30番目前後をキープして最終回に突入。しかし最後の登りの入り口で発生した落車トラブルに進路をふさがれ、先頭グループを外す結果となった。ゴールは約30名のスプリント勝負で、スロバキアのペテル・サガンが僅差で開催国代表のクリストフを下し、3年連続世界一のタイトルを獲得した。トラブルでチャンスを逃した新城には悔しい結果となったが、最後まで展開を見る限り、新城の世界に通用する実力を再認識した。(浅田 顕)



女子エリートの與那嶺



女子エリートの梶原



男子エリートのフィニッシュ



男子エリートの新城

【競技結果】

**2017年ロード世界選手権大会
(2017/9/17-24 ノルウェー・ベルゲン)**

男子エリート個人ロードレース (267.5km)

- 1 SAGAN Peter SVK 6:28:11
- 2 KRISTOFF Alexander NOR 6:28:11
- 3 MATTHEWS Michael AUS 6:28:11
- 46 新城 幸也 JPCA BAHARAIN 6:30:43

男子U23個人ロードレース (191.0km)

- 1 COSNEFROY Benoit FRA 4:48:23
- 2 KAMNA Lennard GER 4:48:23
- 3 SVENDGAARD Michael Carbel DEN 4:48:26
- 46 岡本 隼 和歌山 日大 / 愛三 4:50:13
- 59 雨澤 毅明 栃木 ブリッツェン 4:50:13
- 111 岡 篤志 栃木 ブリッツェン 5:01:47
- 小野寺 玲 栃木 ブリッツェン DNF
- 山本 大喜 奈良 鹿屋体育大学 DNF

男子ジュニア個人ロードレース (133.8km)

- 1 JOHANSEN Julius DEN 3:10:48

- 2 RASTELLI Luca ITA 3:11:39
- 3 GAZZOLI Michele ITA 3:11:39
- 28 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高 3:11:43
- 86 小野寺 慶 栃木 真岡工業高 3:18:48
- 128 蠣崎 優仁 静岡 伊豆総合高 3:30:03

女子エリート個人ロードレース (152.8km)

- 1 BLAAK Chantal NED 4:06:30
- 2 GARFOOT Katrin AUS 4:06:58
- 3 DIDERIKSEN Amalie DEN 4:06:58
- 51 與那嶺恵理 茨城 FDJ Nouvelle 4:09:01
- 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 DNF

女子ジュニア個人ロードレース (76.4km)

- 1 PIRRONE Elena ITA 2:06:17
- 2 JORGENSEN Emma Cecilie Norgaard DEN 2:06:29
- 3 PATERNOSTER Letizia ITA 2:06:29
- 26 下山美寿々 大阪 天王寺高校 2:10:29

男子U23個人タイムトライアル (37.2km)

- 1 BJERG Mikkel DEN 47:06.48
- 2 MCNULTY Brandon USA 48:12.40

- 3 ERMENAULT Corentin FRA 48:23.13
- 43 小野寺 玲 栃木 ブリッツェン 51:46.49
- 44 岡 篤志 栃木 ブリッツェン 52:20.40

男子ジュニア個人タイムトライアル (21.1km)

- 1 PIDCOCK Thomas GBR 28:02.15
- 2 PUPPIO Antonio ITA 28:14.07
- 3 MACIEJUK Filip POL 28:15.44
- 20 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高 29:00.70

女子エリート個人タイムトライアル (21.1km)

- 1 VAN VLEUTEN Annemiek NED 28:50.35
- 2 VAN DER BREGGEN Anna NED 29:02.51
- 3 GARFOOT Katrin AUS 29:09.28
- 22 與那嶺恵理 茨城 FDJ Nouvelle 31:19.51
- 44 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 33:42.87

女子ジュニア個人タイムトライアル (16.1km)

- 1 PIRRONE Elena ITA 23:19.72
- 2 VIGILIA Alessia ITA 23:26.10
- 3 FASNACHT Madeleine AUS 24:02.04
- 30 下山美寿々 大阪 天王寺高 25:51.11

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld

JAL JAPAN AIRLINES

2017 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム

TDF ステージ通算 30 勝のカヴェンディッシュがさいたまを制す



5回目の開催となるさいたまクリテリウム、今年はコースレイアウトを大きく変更しての開催となった。昨年まではさいたま新都心駅の西口を中心にコースが設けられていたが、今年は東口をメインとするコースに変更された。さいたまスーパーアリーナ内を通るコースは採用されなかったが、JRの線路をくぐる東口と西口を結ぶアンダーパスは、今年もコースとして組み込まれた。これにより2本の直線をL字に結んだ高速の東側コースと、道幅が狭く直角コーナーが連続するテクニカルな西側コースという、二つの性格を持つコースレイアウトになった。

スタート&フィニッシュ地点とバックヤードが設置された東口の北袋町1丁目地区は、三菱マテリアル(株)が所有する用地で、今大会の開催も同社

の協力を得ている。付近一帯は区画整理が進められているが、まだ再開発は進んでいない。その敷地を利用してメインストレートの両脇には、有料サポーターのための仮設スタンドが設置され、そこからは迫力のあるスプリントが堪能できる。例年コースからやや離れた場所で開催されていたサイクルフェスタ会場が、今年スタート&フィニッシュ地点に隣接することになり、双方のイベントを訪れることが容易になり、結果として全般的には昨年以上に良いコースレイアウトになったのではないだろうか。

今年も3連覇を果たしたクリス・フルーム(チーム・スカイ)をはじめ、ツール・ド・フランス本戦で活躍した選手が参戦。クリテリウムメインレースは終盤フレームと逃げたワレン・バルギル

(チーム・サンウェブ)がゴール前300mまで単独で粘ったが(敢闘賞を獲得)、最後は集団でのゴールスプリントになり、先行する別府史之(スペシャルチーム・ジャパン)を僅差で下した初出場のマーク・カヴェンディッシュが優勝した。2位は別府、3位には全日本チャンピオンの畑中勇介(チーム右京)が入り、表彰台に2名の日本人選手が立った。

一般体験走行が終わった午後からは、参加選手を紹介するオープニング走行に始まり、ケイリンを模したスプリントレース、ジュニア選手、パラサイクリング選手も走る個人タイムトライアル(これにはナショナルチャンピオンジャージ、パラサイクリングワールドチャンピオンジャージの選手も出場した)やチームタイムトライアル、自転車に親しむ「サイクルフェスタ」、日仏の食の祭典「さいたまるしえ」など、来場した観客を飽きさせないイベントになっている本大会。来年以降も引き続き開催されることを期待したい。

(村田 隆宣)

【競技結果】

2017 ツール・ド・フランス さいたまクリテリウム
(2017/11/4 埼玉・さいたま市)

クリテリウムマイルス (58.9km)

- | | | |
|---|----------------------------|---------|
| 1 | CAVENDISH Mark DDD GBR | 1:25:07 |
| 2 | 別府 史之 TDF JPN | 1:25:07 |
| 3 | 畑中 勇介 UKO JPN | 1:25:07 |
| 4 | BARGUIL Warren SUN FRA | 1:25:07 |
| 5 | BETTIOL Alberto CDT ITA | 1:25:07 |
| 6 | KWIATKOWSKI Michal SKY POL | 1:25:07 |



www.facebook.com/pearlizumi_jp



twitter.com/pearlizumi_jp



[instagram.com/pearlizumijapan](https://www.instagram.com/pearlizumijapan)

作り手であり、使い手である。

着心地、肌触り。人の手でしか辿り着けない感性の領域にまで妥協を許さない。作り手であると同時に、使い手である私たちにしかできないモノづくりがある。サイクリストが肌で感じる感覚を追い求めたそのウェアは世界のトップアスリートと磨き上げられ、あなたが手にする1着へと昇華する。

株式会社パールイズミ 〒130-0026 東京都墨田区両国2-4-2 Tel: 03-3633-7556 Fax: 03-3633-5464
お客様相談窓口 Tel: 03-6825-3450 [平日 9:00~12:00/13:00~17:00(土・日・祝日・年末年始・夏季休暇を除く)]

www.pearlizumi.co.jp



2017-18 UCIトラックワールドカップ第2戦

エリート女子チームパーシュート銅メダル!

速報!



< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.227 2017年10・11月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/小野口 裕朗

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

